

SAPPORO 教区 NEWS

第33号

2021年4月17日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel.011-241-2785／ホームページ：http://www.csd.or.jp

主のご復活おめでとうございます！

桶田終身助祭叙階式行われる

2021年3月24日(水)カトリック北一条教会でベルナルド勝谷太治司教の司式で、新型コロナウイルス禍のため、司祭団と家族のみの参加で執り行われました。

札幌教区で初めての終身助祭。ご復活後に小野幌教会、大麻教会、江別教会の担当助祭として着任します。左の写真は、助祭叙階式で聖書を授かるジヨルジュ桶田達也終身助祭（北一条教会出身）。桶田



千葉神学生朗読奉仕者選任式も併せて行う

助祭叙階式に先立ち、ペトロ千葉充神学生（小樽教会出身）の朗読奉仕者選任式が行われ、千葉神学生は順調に段階を踏んで、司祭叙階の恵みに預かれるように、引

東日本大震災から10年、本当の復興に向けて

地震と津波が東日本の太平洋沿岸を襲ってから今年で10年が経った。物的な復興はずいぶん進んでいるようだが、ある新聞社のアンケートでは地域のつながりの復興は進んでいないとの数字が出て、人々の心はまだまだ道半ばのようである。

震災当初から札幌教区の災害支援の担当司祭として、後方支援グループの信徒たちと岩手県宮古市を中心に復興支援を行ってきた上



宮古教会での追悼ミサ参加者

杉昌弘神父は、今年の3月11日は宮古教会で東日本大震災の追悼ミサを行った。

上杉神父は次のように語ってい

る。「震災から10年目の3月11日、大震災と津波により5000人を超える死者が行方不明者が出た宮古市に行ってきました。宮古教会での追悼ミサは私、佐久間神父、主任司祭パトリック神父様の共同司式。本当に晴れやかで温かい良い気候に恵まれ、天に召された方々の平安を示すかのよう



き続きの祈りをお願いしていました。（左の写真は、式後の参加者の記念写真）

皆さんの目を濡らす涙にも神の慈しみが感じられるものでした。私は、支援活動に活躍したワゴン車を寄贈され、痛みを押して4度ほど宮古に来てくれた場崎神父や、後方支援部を立ち上げた阿部幸子さんを思い出し、と言うより一緒に参加しました。また、時節柄来折つてくれている皆さんといっしょにミサを捧げることができました。佐久間師は説教の中で「10年を区切りに、『後は皆さんよろしく』などというつもりは毛頭ありません。10年前神学生でもなかった私が、今宮古教会でミサ説教をすることなど思いもよらなかったことです。ここで3か月暮らす中で、みなさんを自分の事のように思える自分がいます。他人事のように被災者のことを話題にする者には怒りすら感じる当事者の自分がいます。自分の事としてこれからも皆さんと一緒にいます、必要な時に呼んでください。まいりませう」と力強く宣言してくださいました。私も改めて、そうなのだと思われ、終わって



2021年1月12日朝に療養先の病院から訃報が届きました。新型コロナ禍であり、親族と司祭団のみ参加した葬儀でしたが、1

シエナのベルナルディーノ 場崎洋神父が帰天

最後にりましたが、これまでのカリタス札幌の宮古支援活動を支えてくだ

2021年1月12日朝に療養先の病院から訃報が届きました。新型コロナ禍であり、親族と司祭団のみ参加した葬儀でしたが、1



神様の計らいか斎場や主日のミサなどの日程の関係で葬儀が伸びたため、16日(出)と17日(日)の二日間ご遺体をカトリックセンターに安置でき、三密に気を付けながら、修道者や信徒の方々に場崎神父とお別れして頂くことが出来ました。雪の積もっている寒い中でしたが、延べ500名余りの方々が別れに訪れてく

場崎洋神父は、帯広で1958年7月に生まれ翌月の聖母の被昇天の祭日に洗礼を受けました。1989年5月に司祭叙階を受け小野幌教会助任司祭を始めとする小教区の司牧、教区事務局長として北海道の福祉や被災者を支援するために札幌カリタスの立ち上げや、カリタス家庭支援センターなどの立ち上げなど様々な事柄に対処してきました。また、北海道カトリック学園の専務理事として地主司教を助け幼児

れたことには感謝の言葉しありません。場崎洋神父は、帯広で1958年7月に生まれ翌月の聖母の被昇天の祭日に洗礼を受けました。1989年5月に司祭叙階を受け小野幌教会助任司祭を始めとする小教区の司牧、教区事務局長として北海道の福祉や被災者を支援するために札幌カリタスの立ち上げや、カリタス家庭支援センターなどの立ち上げなど様々な事柄に対処してきました。また、北海道カトリック学園の専務理事として地主司教を助け幼児

なると思ってもいなかっただからです。幸いにも2019年、東京で開催された「CARM」全国教会担当者会議に参加しましたので、この委員会が何のために設立されたのかを理解する上で重要な下地が与えられていました。けれども、移住者の問題に取り組みむことは簡単なことではありません。入国管理局、警察をはじめとする地方自治体などの政府機関や様々な民間機関とのネットワークを構築し、法的な問題を解決していくこともあるかもしれません。協働と日々の相談が重要となり、効果的かつ法的な事務に関する教育も必要です。しかし、この仕事に最も必要なものは、困っている移住者を助けようとする心と、彼らの状況を理解しようとする耳を持つことだと私は思います。

マリアがイエスを産むと期待されたその夜、宿泊する場所のないベツレヘムへと向かうイエスとマリアとヨセフの聖家族の旅が思い浮かびます。彼らは、何も持たず、歓迎されない土地にいる外国人でした。神様

は多くの人々を動員し、この移住家族が利用可能な場所を見つけ、宿泊することによって、神の摂理を示された。最も印象的なのは、わずかな資源と豊かな愛と善意があれば、援助が可能であるということ。聖家族とベツレヘムの人々の経験から学び、良い行いと支援の手を通して、神様と共に協力することができると信じています。私たちが本気で変化をもたらすことができず、そうすれば、私たちの共同体や教会には、より貧しい移住者は少なく、彼らは、私たちの共同体にとって重要なメンバーとなるべきです。イエスの降誕がもたらす喜びと平安へと私たちが導かれますように、そして、神の正義が行われますように、私たちの心と家庭においても主の道を迷わずに歩んでいきましょう。あなた

月18日(月)午後6時から通夜、19日(火)午前10時から札幌カテドラル(カトリック北一条教会)にて、ベルナルド勝谷太治司教の司式で行われました。

昨年11月に開催された司祭会議の時に、私は、勝谷司教様から札幌教区の難民移住移動者委員会(J-CARM)の新しい責任者として指名されました。それは私にとって思いもか

けなかつたことだったの、二つの理由からすぐに「はい」と答えることができませんでした。一つは、日本語がまだ十分ではないので、自分の名前と「CARM」以外に何を言われているのか完全に理解できなかったからです。そして、もう一つは、J-CARMが何かは知ってはいるものの、まさか自分がこの教区の事務局を任せられることに

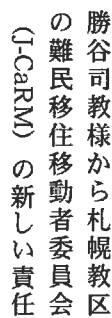
なると思ってもいなかっただからです。幸いにも2019年、東京で開催された「CARM」全国教会担当者会議に参加しましたので、この委員会が何のために設立されたのかを理解する上で重要な下地が与えられていました。けれども、移住者の問題に取り組みむことは簡単なことではありません。入国管理局、警察をはじめとする地方自治体などの政府機関や様々な民間機関とのネットワークを構築し、法的な問題を解決していくこともあるかもしれません。協働と日々の相談が重要となり、効果的かつ法的な事務に関する教育も必要です。しかし、この仕事に最も必要なものは、困っている移住者を助けようとする心と、彼らの状況を理解しようとする耳を持つことだと私は思います。

マリアがイエスを産むと期待されたその夜、宿泊する場所のないベツレヘムへと向かうイエスとマリアとヨセフの聖家族の旅が思い浮かびます。彼らは、何も持たず、歓迎されない土地にいる外国人でした。神様

は多くの人々を動員し、この移住家族が利用可能な場所を見つけ、宿泊することによって、神の摂理を示された。最も印象的なのは、わずかな資源と豊かな愛と善意があれば、援助が可能であるということ。聖家族とベツレヘムの人々の経験から学び、良い行いと支援の手を通して、神様と共に協力することができると信じています。私たちが本気で変化をもたらすことができず、そうすれば、私たちの共同体や教会には、より貧しい移住者は少なく、彼らは、私たちの共同体にとって重要なメンバーとなるべきです。イエスの降誕がもたらす喜びと平安へと私たちが導かれますように、そして、神の正義が行われますように、私たちの心と家庭においても主の道を迷わずに歩んでいきましょう。あなた

レイナルド・ランダザバル・レガヤタ 札幌教区難民移住移動者委員会担当司祭

昨年11月に開催された司祭会議の時に、私は、勝谷司教様から札幌教区の難民移住移動者委員会(J-CARM)の新しい責任者として指名されました。それは私にとって思いもか



けなかつたことだったの、二つの理由からすぐに「はい」と答えることができませんでした。一つは、日本語がまだ十分ではないので、自分の名前と「CARM」以外に何を言われているのか完全に理解できなかったからです。そして、もう一つは、J-CARMが何かは知ってはいるものの、まさか自分がこの教区の事務局を任せられることに

なると思ってもいなかっただからです。幸いにも2019年、東京で開催された「CARM」全国教会担当者会議に参加しましたので、この委員会が何のために設立されたのかを理解する上で重要な下地が与えられていました。けれども、移住者の問題に取り組みむことは簡単なことではありません。入国管理局、警察をはじめとする地方自治体などの政府機関や様々な民間機関とのネットワークを構築し、法的な問題を解決していくこともあるかもしれません。協働と日々の相談が重要となり、効果的かつ法的な事務に関する教育も必要です。しかし、この仕事に最も必要なものは、困っている移住者を助けようとする心と、彼らの状況を理解しようとする耳を持つことだと私は思います。

マリアがイエスを産むと期待されたその夜、宿泊する場所のないベツレヘムへと向かうイエスとマリアとヨセフの聖家族の旅が思い浮かびます。彼らは、何も持たず、歓迎されない土地にいる外国人でした。神様

は多くの人々を動員し、この移住家族が利用可能な場所を見つけ、宿泊することによって、神の摂理を示された。最も印象的なのは、わずかな資源と豊かな愛と善意があれば、援助が可能であるということ。聖家族とベツレヘムの人々の経験から学び、良い行いと支援の手を通して、神様と共に協力することができると信じています。私たちが本気で変化をもたらすことができず、そうすれば、私たちの共同体や教会には、より貧しい移住者は少なく、彼らは、私たちの共同体にとって重要なメンバーとなるべきです。イエスの降誕がもたらす喜びと平安へと私たちが導かれますように、そして、神の正義が行われますように、私たちの心と家庭においても主の道を迷わずに歩んでいきましょう。あなた

昨年11月に開催された司祭会議の時に、私は、勝谷司教様から札幌教区の難民移住移動者委員会(J-CARM)の新しい責任者として指名されました。それは私にとって思いもか

けなかつたことだったの、二つの理由からすぐに「はい」と答えることができませんでした。一つは、日本語がまだ十分ではないので、自分の名前と「CARM」以外に何を言われているのか完全に理解できなかったからです。そして、もう一つは、J-CARMが何かは知ってはいるものの、まさか自分がこの教区の事務局を任せられることに

なると思ってもいなかっただからです。幸いにも2019年、東京で開催された「CARM」全国教会担当者会議に参加しましたので、この委員会が何のために設立されたのかを理解する上で重要な下地が与えられていました。けれども、移住者の問題に取り組みむことは簡単なことではありません。入国管理局、警察をはじめとする地方自治体などの政府機関や様々な民間機関とのネットワークを構築し、法的な問題を解決していくこともあるかもしれません。協働と日々の相談が重要となり、効果的かつ法的な事務に関する教育も必要です。しかし、この仕事に最も必要なものは、困っている移住者を助けようとする心と、彼らの状況を理解しようとする耳を持つことだと私は思います。

マリアがイエスを産むと期待されたその夜、宿泊する場所のないベツレヘムへと向かうイエスとマリアとヨセフの聖家族の旅が思い浮かびます。彼らは、何も持たず、歓迎されない土地にいる外国人でした。神様

は多くの人々を動員し、この移住家族が利用可能な場所を見つけ、宿泊することによって、神の摂理を示された。最も印象的なのは、わずかな資源と豊かな愛と善意があれば、援助が可能であるということ。聖家族とベツレヘムの人々の経験から学び、良い行いと支援の手を通して、神様と共に協力することができると信じています。私たちが本気で変化をもたらすことができず、そうすれば、私たちの共同体や教会には、より貧しい移住者は少なく、彼らは、私たちの共同体にとって重要なメンバーとなるべきです。イエスの降誕がもたらす喜びと平安へと私たちが導かれますように、そして、神の正義が行われますように、私たちの心と家庭においても主の道を迷わずに歩んでいきましょう。あなた

は多くの人々を動員し、この移住家族が利用可能な場所を見つけ、宿泊することによって、神の摂理を示された。最も印象的なのは、わずかな資源と豊かな愛と善意があれば、援助が可能であるということ。聖家族とベツレヘムの人々の経験から学び、良い行いと支援の手を通して、神様と共に協力することができると信じています。私たちが本気で変化をもたらすことができず、そうすれば、私たちの共同体や教会には、より貧しい移住者は少なく、彼らは、私たちの共同体にとって重要なメンバーとなるべきです。イエスの降誕がもたらす喜びと平安へと私たちが導かれますように、そして、神の正義が行われますように、私たちの心と家庭においても主の道を迷わずに歩んでいきましょう。あなた

韓神父様が 横浜教区へ異動



主の平和が皆さんと共に皆さん、こんにちは。韓神父です。

まず、札幌教区で司祭として勤めさせていただいたことに、勝谷太治司教様に感謝申し上げます。そして、いつも必要とするすべてのことを助けてくださり、教えをくださった神父のみなさま、シスターのみなさま、そして見えない所でいつもお祈りで応援してください。助けてくださった信者のみなさまに感謝申し上げます。

札幌教区に来て5年半の時間がいつの間にかあつという間に過ぎました。始めは北26条教会、山鼻教会で1年間日本語を勉強しました。あの時、場崎神父様と信者の方々が、何もできない私を助けてくださいました。私が札幌教区で司祭として生きていけるように

固い垣根になってくださいました。感謝いたします。そして、日本で主任神父として初めて赴任した大麻教会、江別教会での司牧は本当に幸せでした。まだ日本語もできない私を温かく迎えてくださり、その時に信者の方々と一緒にごミサ後、料理を作つて食べたのが幸せでした。何もできなかったのですが、すべてが信者の方と共にできました。本当にありがとうございます。

ちがいつも教会に来て一緒に祈り、笑顔で喜びと感謝のミサを捧げました。そしてミサ後は一緒に日本料理、ベトナム料理、韓国料理も作つて食べながら、互いが互いの大きな力になりました。手稲教会の信者の方々が、ベトナムの若者たちを自分の息子や娘のように温かく迎えてくださり、家族のように接してくださつたことを感謝していただきます。

皆さん！ 私はこれからまた新しい旅路を始めようと思えます。イエスの教えに従って生きていく私たちは、いつも愛の中に心一つです。美しい北海道、共に歩んで来た温かいみなさまを忘れません。これまで大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

ベトナムから参りましたアントニオ・レ・シユアン・ビンと申します。昨年10月から円山教会の加藤神父様のもとで生活し、ミサにおいては侍者を務め、毎日神父様から教会の祈りや日本の教会のことなどを学んでいます。皆様にお祈りしていただきおかげで、12月の神学校の試験に合格できました。今年4月から東京で神学を学ぶことになりました。私は子供のころから司祭の道に憧れていました。私の住んでいた村の教会で一週間に三回、週末などにカテキズムや聖書やカトリック教会のことなどを学びました。その時から、私にとつて神学を勉強することとは何よりも大切なことになりました。今は夢が叶うので非常に嬉しいです。

以前は、北海道といえは寒い所だと聞いていましたが、周りの皆様に色々とお世話していただき、私の心は大変暖かくなりました。その感謝の気持ちを持って、いい司祭になる道を歩いて行くつもりです。私は外国人なので、日本語がまだまだです。これから神学を勉強する時、厳しい状況になるでしょう。しかし、負けずに続けなければならぬと考えています。もし皆様も祈ってください。私はこの厳しい状況を乗り越えられると思います。

4月からは北海道を離れるために、皆様に会えませんが、東京から毎日の祈りの中で、皆様のことを思いまします。今はコロナのせいで、苦しいことが多いですが、皆様が神様の恵みの中で元気にいらつしやることを心から願っております。祈りとともに。ありがとうございます。

典礼委員会の紹介

札幌教区典礼委員会では今、二つの役割を担っています。一つ目は日本司教団の典礼委員会からのお知らせや決定事項を教区全体に伝えることです。主に儀式書を整備するためのものです。例えば、新しい記念日(2020年12月7日)などを発信します。これらは主任司祭が日々の司牧で通常担うもの



アントニオ・レ・シユアン・ビン 新神学生

皆様、初めまして。

ですが、新型コロナ感染症拡大を受けて教会に集まることができなくなっている状況なので文書として典礼委員会から発信することとしました。またご意見ご感想などを受けておりませんが、今後も典礼委員会として司牧的な発信は続けていきたいと思っております。

(札幌地区典礼委員 佐藤謙一)

**カリタスジャパン
災害対応
トレーニング**



各小教区における災害支援体制の確立急務、2020年10月20日午後2時〜4時、カリタスジャパンによる札幌教区災害対応トレーニングがZoomによって開催され、勝谷司

教、佐藤謙一教区事務局長、各地区長・代表信徒、司教事務局員等が参加した。カリタスジャパンのトレーナー、漆原比呂志氏、辻 明美氏の進行によって、既に各小教区に配布されている災害対応マニュアル(※参照)についての動画説明を視聴した後、トレーナーから提示された災害対応シミュレーションに全員で取り組んだ。

災害シミュレーションは、3個の台風が北海道に上陸し、大雨による河川氾濫や土砂災害が各地で発生、特に石狩川水系の空知川(南富良野市)では堤防が2か所で決壊、浸水面積が約130ha、浸水家屋が183戸との想定が示され、南富良野市をターゲットに札幌教区として被災者支援プログラムをどう計画するかという課題であった。

札幌教区では、2011年東日本大震災を機に「カトリック札幌教区災害サポートセンター」を設置、勝谷司教を責任者に、佐藤謙一事務局長、佐久間力副事務局長、佐藤秀雄事務局長等で構成され、教区内

災害対応の窓口として機能している。基本的には災害発生時に各地区を通して当該被災小教区の状況を把握し初動する体制となっており、シミュレーションではその手順を確認しながら対応について意見が交わされる。その中で発災時における情報収集や集約方法にいくつかの課題が浮上。札幌教区災害サポートセンターが小教区と協働するために

は、各小教区が、まずこのマニュアルを活用し、災害支援体制を作ることが急務となる。そこで、今後各小教区においては、実情に合わせた災害支援計画を、特に、災害時に対応する、医師、看護師、社会福祉士等の専門職や、作業労務を担う非専門職などの人材を、あらかじめ確保し策定しておくなど、できることから準備を進めていくようお願いしたい。(具体的には準備編40ページ「災害対応人材リスト」)

※災害対応マニュアル
カリタスジャパンでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災での災害支援活動の経験を踏まえ、

今後も日本各地で発生する様々な災害について、教区がどのようにその支援活動を行えばよいのか、その手引きとして「災害対応マニュアル準備編・対応編(2冊セット)」を2019年12月1日に発行し各小教区へ配布した。「準備編」では、緊急時に速やかに対応できるように平時からの体制整備について、「対応編」では、実際に大災害が発生し対策本部の立ち上げから支援に至るまでの流れについて記載されている。

**カリタス家庭支援
センター3月で閉所**

カリタス家庭支援センターが2021年3月31日をもって16年の相談支援活動に幕を閉じた。職員の定年退職等による人材確保ができず、2020年11月に開催された書面臨時総会での承認を経て、教区顧問会議が受理した。センター広報誌「カリタスの風」66号(11月下旬発送)で周知されているとおり、既に新規相談については12月28日に終了し、中長期の相談者については3月31日をもって支援を終了した。

カリタス家庭支援センターは2004年5月、堤邑江氏によって設立された教区公認の相談支援センターで、毎年教区から500万円の人件費支援を受けて運営されてきた。制度のはざまにあつて苦しむ生活困窮者に寄り添うことを柱に、設立当初から社会に先駆け複雑な社会支援制度にワンストップで繋ぐ支援活動を

地道に行ってきた。また、今春、札幌教区難民移住移動者委員会とともに「コロナ禍による生活困窮者特別支援」プロジェクトをいち早く立ち上げ、公的支援だけでは生活が立ち行かない、シングルマザーや技能実習生、外国人労働者、留学生などへ生活物資や義援金を届ける活動を行ってきた。(教区ニュース32号)このように、センターはカトリック内外の様々な機関と協働しながら社会制度の補完的役割も果たしてきたことから、利用者及び支援者はもちろん、多くの関係機関からも閉所を惜しむ声は絶えない。

しかしながら、社会福祉士・精神保健福祉士という国家資格を有する専門職であり、場合によっては昼夜問わず緊急事態に対応する業務でありながら、昇給賞与もない月給年契約という労働待遇では、後継者を発掘することはもはや困難な時代である。そもそも少子高齢化時代にあつて、人材確保自体がどの業態でも非常に厳しい状況であることから、事業所として存続するという考え方はなく、支援の在り方自体を見直すという局面を迎えている。

梅原公子センター長は、「『終える』とは単に無くすことではなく、次の新しい形を生みだしていくことに繋がっています。教区における相談支援の一極集中的なセンターの組織から、各教会が隣人に寄り添う働きを担う形への移行は、決して逆行りではなく、今の時代にこそ合致するものと思います」と、小教区信徒一人ひとりに語りかける。
現在センターでは、様々な困難を抱え

て教会を訪れる人を想定し、各小教区でもその支援に取り組めるよう、「つなぐ支援」に視点を置いた情報小冊子を独自に作成中だ。困りごとの内容に応じてつなげる支援機関等がコンパクトにまとめられている他、地域における情報も書き込めるようになっており、今後全道の小教区に配布する予定。梅原センター長は、「今までカリタス家庭支援センターが大切にしてきた『同じ生活者としての視点』を大切に本書を構成しました、各小教区では非活用してほしい」と話している。

カリタス家庭支援センターは2021年3月31日をもって相談支援活動を終了し、閉所に係る諸業務を経て5月31日をもって完全閉所となる。



「日本のカトリック教会における感染症対応ガイドライン」示される ～あらゆる感染症に対応するために～

2020年11月1日、日本カトリック司教協議会より「日本のカトリック教会における感染症対応ガイドライン」が発表されました。

ガイドラインでは、「感染症発症時のリスクマネジメント」を感染状況に応じて、①国外における感染症の発症時、②国内における感染症の発症時、③国内における感染症の感染拡大、④国内における感染症の流行継続、⑤国内における感染症の減少期、⑥国内における感染症の終息の、6つの局面に分けそれぞれ取るべき対応を具体的に示しています。

また、別添①「感染症流行下における秘跡・典礼挙行のガイドライン」では、ミサ前後及びミサ中における対応をはじめ、入信の秘跡、結婚式、ゆるしの秘跡、病者訪問・病者の塗油の秘跡、通夜・葬儀のガイドラインが詳細に示されています。別添②「感染症に関する広報ガイドライン」では、風説に惑わされず適切な情報収集に努めること、情報公開の必要については、教会活動において新規感染者が発生した場合とした上で個人情報保護を遵守し「出す情報」と「出さない情報」を適切に識別することなどが示されています。（ガイドライン全文については教区ホームページにも掲載）

勝谷司教は2021年年頭書簡でこのガイドラインに触れ、「書かれているガイドラインをすべて忠実に実行することはかなり大変でしょう。広い北海道では地区によって感染状況も違いますし、教会に集まる信者の数もまちまちです。統一した指針を出すことは不可能です。その為、小教区によって信者自らが判断し感染対策を行うことが必要です。ガイドライン通りすべてを実行することは不可能でも無理なくできることはすべて行うことが求められます。」と、各小教区の状況に合わせて取り組むよう呼び掛けています。

北海道は昨年11月20日に感染者数が304名に達し、その後増減を繰り返しながらも100名を切る状況に至っていますが、全国的には大都市圏で感染が急増、年明けには緊急事態宣言が発出されました。その解除後は、今度は変異ウイルスによる感染が全国各地で急増、まん延防止等重点措置が講じられる事態となっています。これらの状況をガイドラインに照らし合わせると、④「国内における感染症の流行継続」に相当しており、今後③「国内における感染症の感染拡大」の局面に移行する可能性を含みつつ継続が予想されることから、ミサの対応部分について改めて理解に努めるようお願いいたします。

④「国内における感染症の流行継続」：緊急事態宣言、営業・移動の自粛要請は解除されているが、依然として感染症が流行し続けている段階

○以下のような感染症対策を行った上でミサを行うことができる（詳細は別添①「感染症流行下における秘跡・典礼挙行のガイドライン」を参照）。

- *十分な社会的距離を保てるように人数制限を行う。
- *高齢者、基礎疾患がある方へのミサ出席の自粛要請。
- *すべての信徒へのミサ出席義務免除。
- *教会でのマスク着用（司祭も信徒も）。
- *ミサ出席者は入堂前に検温し、名前と連絡先と日付の記録を残す。
- *聖堂入口に手指消毒用アルコールを設置。
- *共用の聖歌や祈りのカードは使わない（撤去する）。
- *「聖書と典礼」や週報は戻さず、必ず持ち帰る。残部は破棄する。
- *聖水盤の使用自粛。

- * ミサ中の換気に留意する。
- * 会衆による歌はなし（感染を防げる十分な距離を保てれば、先唱または少人数の聖歌隊による歌唱は可能）。
- * 説教は短く。
- * 奉納の中止。
- * 献金はミサの中では集めない。
- * 平和のあいさつでの身体的接触（握手、抱擁、接吻等）の自粛。
- * 聖体拝領前に、司祭も信徒も、再度手指の消毒を行う。
- * 聖体を口にうけることの自粛。

このような感染症対策に取り組む際の留意すべき点として、勝谷司教は次の点を強調されています。「どこまで実践するのか、教会内で議論が起これば対立を生んでいると言う報告もあります。お願いしたいことは、それぞれの確信を主張し譲ることなく対立を深めるのではなく、共同体としてのコンセンサスを大切に、決められたことには皆が協力して取り組む姿勢です。～中略～ 恐ろしいのは、無関心同様、私たちの不安や不満のはけ口として誰かを悪者にしようとする心理です。これこそが私たちを分断させる恐ろしいウイルスです。」 今一度日々の対策について確認するとともに、心をつなげてこの困難を乗り越えてゆきましょう。

「ネットワーク・ミーティング報告」

（北二十六教会 武川こむぎ）

ネットワーク・ミーティング（以後NWM）というのは、全国の青年たちによって構成される「カトリック青年連絡協議会」が後援しているイベントです。全国のカトリックの青年や、教会に興味のある青年、青年活動を支える修道者・司祭が集い、情報交換や交流をし、今抱えている問題や信仰のこと等を分かち合う場として、年に2回（9月と2月）教区持ち回りで開催されています。カトリック青年連絡協議会は、情報交換と交流を通じて、教区を超えたカトリック青年の活動を支援し、促進することを目的としている組織です。



実現の一助となることを目指しています。（札幌NWM 2017集合写真）

（札幌NWMスタッフ集合写真）



教様（開催時は被選司教）のお話を聞き、分かち合いをするというプログラムは非常に有意義な時間となりました。

今回のNWMは2021年2月頃に横浜・大阪教区合同開催のオンライン開催。

札幌教区は過去に3度NWMを主催しています。2017年には支笏湖のユースホステルを会場として「ハッケン！」というテーマで開催し、96名の参加者が集まってくれました。また他教区主催のNWMにも毎回札幌教区の青年が参加しています。札幌教区の青年担当者は青年連絡協議会の賛同教区として運営委員会にも毎回出席し、全国の青年担当者と共に良い青年活動を目指し話し合いを行っています。

2020年9月には、NWMが新潟・名古屋教区合同開催でした。もともと新潟での開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地では集まるとの開催は中止となり、オンライン（Zoom）を使った開催となりました。このオンラインでのNWMは前例のない、初の試みとなりました。開催前には「うまくいくのか？」という不安の声もありましたが、当日は54名の青年が参加し、レクリエーションや分かち合いを行い、素敵な時間を過ごすことができました。特に名古屋教区の松浦悟郎司教様と、新潟教区の成井大介司

そして来年2021年9月には、札幌教区でNWMを開催することが決まりました。今は札幌教区の青年スタッフがオンラインで集まり、開催に向けて会議をしています。新型コロナウイルス感染症の影響により中止になる可能性もありますが、スタッフは現地での開催ができることを信じて祈りながら準備を進めています。NWMは全国の青年と交流できる貴重な場です。札幌教区の青年活動やまだ参加したことがない札幌教区の青年にも、ぜひ参加してほしいと思っています。また札幌教区の皆様のご協力・お祈りよろしくお願いたします。



教区の風 「福音宣教の新しい可能性・後編」

コロナの蔓延が危険視されていた三月中旬以降は、教会では会衆を招いたミサは禁止されてしまった。それぞれの司祭は教会でひとりきりでミサを挙げることを求められている状況でした。わたしも千歳教会の聖堂でひとり寂しくミサを挙げる毎日でしたが、青年から働きかけをきっかけに、教会でも若い世代の方に協力を願って、とりあえずZoomミサを始めました。始めた当初は操作が分からずうまくいかないことも多くありました。映像が見えない。勝手に画像が切り変わる。音声が入らない。ひどい雑音が入る。しかし次第に使い慣れ、とても有用なものであるとわかってきました。何が良かったかというと、単なる動画配信サイトでのミサ配信と違って参加者がわかるといふことです。そして、応唱が聞こえるというのがとても良い点でした。「主は皆さんと共に」に対して「また司祭と共に」と返ってくる。一人ぼっちのミサとの違いにわた

しは感動しました。ひとりミサを挙げていても寂しくないのです(笑)。さらにZoomミサ参加者に「聖書朗読」や「先読み」もしてもらうことが可能になりました。実際に主日のミサで、参加者に聖書朗読や答唱詩編をお願いしていました。(分散ミサが始まると必要がなくなりましたが)ミサを見ている参加者の能動的参加が可能となり、また同時性がある。ローマでパパ様をやつてたように生中継で見られるのであれば「祝福」も有効になるようです(確証はありませんが、そのように言っている文章もあります)。やはりこの「同時性」は重要な点であると思われました。

その後、まず皆さんにZoomミサに参加していただくべく宣教を始めました。その頃、希望する方にご聖体を持って行っていただきましたので、その時にアプリの使い方を教えて、Zoomミサへの参加者を徐々に増やしていきました。そして現在ではZoomミサグループに登

録している人が40名以上になり、毎日見に来ている方は16、17名ほどになつています。中には80歳を超える高齢の参加者もいますし、夫婦で自宅から毎日ちゃんとミサを見に来てくれていたり、病院や施設から見に来てくれる方もいます。分散ミサが始まった現在でも、平日の朝ミサ、主日のミサに來られない方のためZoomでのミサ配信は続けています。もしミサ配信に参加したいという方がいましたら、他の小教区の方でも参加はしていただけますのでご連絡をください。

ウィズ・コロナの時代において、高齢者がこういったテレビ会議システムや映像通信の手法を手にするには、大きな意味があると思います。現状のように、ウイルスの特効薬もワクチンも開発が未完成の状況で、もし感染して病院に入院した場合、今は入院先に会いに行くことができません。たとえ家族でもお見舞いがかたわらないのです。しかしその時にスマートフォンが一台あって、アプリの一つでも使うことができれば、実際に顔を合わせたの面会は出来な

くとも、映像を通して会話をすることもできるし、励ましの言葉をかけてあげることもできるのです。オンライン・ミサに限らず、離れている家族や友人と折ったり、分かち合ったりすることもできる。スマホの発達は「心の距離を広げてしまった」と言われますが、使い方によってはわたしたちをつなぐ道具ともなる。人間が生み出した文明の利器をどう使うかは人間に与えられた課題で、それをいかに善い目的に使うことができるかが問われています。どのような技術も、便利であれば便利であるほど善い面と悪い面の両面があり、それらを良く知って使うことが大切であると思えます。

善く使うためには、「イエス様の導きに耳を澄ませること」が大切でしょう。新型コロナウイルスのもたらした災厄を、ただの災厄に終わらせずに、そこから新しい何かを見出すことに、新しい時代の新しい福音宣教のヒントが隠されているような気がする出来事になりました。

佐久間力

訃報

※神様のみもとの安息をお祈りください

2008年6月25日 腰椎脊柱管狭窄症の療養のため大分へ
2011年3月1日 北26条主任、その後手稲・花川の主任を兼任
2017年4月1日 北26条協力司祭となり療養に努める
2020年12月3日 療養のため定山溪病院に入院
2021年1月12日 帰天

◆教区司祭

▽シエナのベルナルディーノ 場崎洋神父



運動失調・上下肢の運動障害のためリハビリ入院していた病院で1月12日午前6時40分、神様のもとに召されました。享年63歳

◆厳律シトー会(トラピスト) 父

長年、女子修道院のチャプレンとしてシスターたちのために毎日ミサを捧げ、神父様の人柄を慕って悩みを抱えて訪れる人々をやさしく励ます神父様でした。かねてから療養中の病院で、12月5日17時54分に老衰のため帰天。享年92歳

【略歴】

1958年7月28日帯広で生まれる
1958年8月15日受洗
1989年5月5日司祭叙階

1989年 小野幌助任司祭着任後、江別・伊達の主任司祭代行
1992年10月1日 表町主任
1994年4月 教区事務局長、真駒内・岩見沢・新田・北26条・手稲・花川・山鼻・江別・大麻の主任司祭を歴任

1993年7月2日 厳律シトー会ブリックベック修道院に入会
1959年6月28日 司祭叙階

1961年9月 34歳で日
本へ派遣され来日し、日本
語を学んだ後1964年か
ら日本各地の女子トラピス
チヌ修道院でチャブレンを
歴任
2019年9月10日 司祭
叙階60周年を機にチャブレ
ンを引退し当別の修道院で
療養
2019年12月25日 降誕
祝
ミサ中に倒れ入院。快復後
は療養型病院で療養
2020年12月5日 帰天

で周りを喜ばせていた。享
年92歳
【略歴】
1928年4月23日生まれ
1947年3月15日 受洗
1950年8月26日 入会
1953年8月11日初誓願
1958年10月15日終生誓
願
2002年11月4日誓願金
祝

2019年12月25日 降誕
祝
2012年11月23日誓願
ダイヤモンド祝

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝

2019年12月25日 降誕
祝
2012年11月23日誓願
ダイヤモンド祝

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝

2019年12月25日 降誕
祝
2012年11月23日誓願
ダイヤモンド祝

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝

2019年12月25日 降誕
祝
2012年11月23日誓願
ダイヤモンド祝

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝

2019年12月25日 降誕
祝
2012年11月23日誓願
ダイヤモンド祝

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝



▽Sr. M. カリタス 山中榮子

修道生活70年。花川マリア
院においてパーキンソン病
と老衰のため9月15日帰
天。看護師の資格を持ち、
看護の分野で9年間奉仕し
たのち、一関市山目の修道
院と養護施設の開設当初の
シスター6名の一人として
派遣された。園児や職員に
愛を注ぎ、独特のユーモア

花川マリア院において、
パーキンソン病と老衰のた
め9月16日に帰天。初誓願
後20年間藤女子短大と大学
で事務の仕事に従事。その
後、旭川、花川、札幌の修
道院長をそれぞれ6年間ず
つ務めた。共同体でも職場
でも楽しい雰囲気を作り、
どなたにも笑顔で暖かく接
しられていた。
【略歴】
1931年9月30日生まれ
1949年12月24日受洗



▽Sr. M. テレーゼ 小林悦子

札幌マリア院において、平
滑筋肉腫のため9月29日帰
天。初誓願後のおよそ55年
間、旭川、青森、草加、一
関市旭町、函館で幼児教育
に奉仕した。最後の函館で
は藤幼稚園で22年間奉仕
し、その内18年間は園長を
務められた。いつも神様の
御手の中にいることを感謝
していた
【略歴】
1938年2月18日誕生
1952年6月1日受洗
1958年3月25日入会
1961年1月12日初誓願
1966年9月23日終生誓
願

1961年9月8日入会
1964年8月12日初誓願
1969年8月12日終生誓
願
2010年11月23日誓願金
祝



▽Sr. M. エミリア 下野富美子

花川マリア院において12
月2日帰天。北海道内外の
11の支部で約50年間修道院
内の調理の仕事に奉仕しま
した。享年87歳
【略歴】
1933年1月10日誕生
1955年4月10日受洗
1958年9月8日入会
1961年8月12日初誓願
1966年9月23日終生誓
願
2010年11月23日誓願金
祝

2020年11月23日ダイヤ
モンド祝



▽Sr. M. コルドウラ宇野チヤ

若いシスターを養成し、副
管区長を12年間務めた。享
年87歳
【略歴】
1933年2月24日誕生
1955年12月4日受洗
1961年3月24日入会
1964年1月11日初誓願
1972年8月12日終生誓
願
2013年11月23日誓願金
祝



▽Sr. M. ダニエレ 三井和子

札幌マリア院において1月
1日帰天。誓願後は藤女子
中高で約35年間英語教師を
務め、養成担当者としても
祝

2015年11月23日誓願金
祝



▽Sr. M. カンデラ 阿部千也

入院先の月形町立病院で
2月7日朝に帰天。札幌マ
リア院で40年余り受付係と
して奉仕。訪れる方々を喜
んで愛深くもてなしていま
した。享年90歳
【略歴】
1930年8月28日誕生
1950年8月14日受洗
1963年9月7日入会
1966年8月12日初誓願
1972年8月12日終生誓
願

2005年11月23日誓願金
祝
2015年11月23日ダイヤ
モンド祝



▽Sr. M. コンソラータ前田早苗

花川マリア院において2
月10日帰天。誓願後約45年
北見、旭川、倶知安、青
森、小樽などの幼稚園で奉
仕。青森藤幼稚園では27年
間園長を務めた。享年94歳
【略歴】
1927年1月18日誕生
1949年5月25日受洗
1953年9月12日入会
1956年8月11日初誓願
1961年9月23日終生誓
願

